

令和6年度岩手県小中学校副校長会 第2回評議員会（オンライン会議）

令和7年2月17日（月）

10:00～11:30

評議員・佐々木・坂井・星副会長：所属校
会長・北田副会長・事務局長・総務部長・
総務副部長(調査)・研修部長・広報部長：
下橋中学校 第2会議室
司会進行：事務局次長
記 録：北田副会長

- 1 開会のことば …佐々木副会長（金ケ崎小）
- 2 会長あいさつ
- 3 議長選出 宮古地区：山口 博文（新里小）久慈地区：宅石 茂樹（長内中）
- 4 報 告（事務局長、各部長）
 - (1) 令和6年度会務中間報告（一般・各部）
…会務 P1・総務部総務担当 P2・調査担当 P3・研修部 P4・広報部 P5
 - (2) 令和6年度第48回岩手県小中学校副校長会研究大会報告…P6~P10
 - (3) 令和6年度一般会計並びに特別会計歳入歳出中間決算報告…P11~P13
報告(4)(5)については各会議次第のみの別添報告資料
 - (4) 全国教頭会会議報告（理事会…全国 P1~P2 要請部長会…全国 P3
研究部長会…全国 P4~P6）
 - (5) 東北教頭会会議報告（理事研修会…東北 P1~P2 研究部長会…東北 P3 事務担当者会…東北 P4）
- 5 議 事
 - (1) 令和6年度会務中間報告（一般、各部）に関する件
 - (2) 令和6年度第48回岩手県小中学校副校長会研究大会報告に関する件
 - (3) 令和6年度一般会計並びに特別会計中間決算報告に関する件
 - (4) 令和7年度活動方針（案）及び各部活動計画（案）について
…方針 P14・総務部総務 P15・調査 P16・研修部・P17 広報部 P18~P19
 - (5) 令和7年度以降の研修体制について…P20~P21
 - (6) 災害復興支援について…P22
 - (7) 令和7年度事業計画（案）について…別添 A3 資料
 - (8) 令和7年度全国大会茨城大会について…P23~P28
 - (9) 令和7年度東北大会山形大会について…P29~P32
 - (10) 令和7年度一般会計並びに特別会計予算（案）について…P33~P36
 - (11) 令和7年度役員選出について…P37
 - (12) その他
・岩手県小中学校副校長会60周年記念事業について…P38
- 6 議長解任
- 7 その他
 - (1) 新年度事務局報告のお願い
 - (2) その他
- 8 閉会のことば …小山田副会長(松野小)

令和6年度岩手県小中学校副校長会 会務中間報告

月	日	行 事 名	備 考
4	16	理事代表者会議①	下橋中学校
5	8 8 21 30～31	理事代表者会議② 理事全体会① 評議員会①地区事務局長合同会議 東北教頭会理事研修会①	サンセール盛岡 サンセール盛岡 サンセール盛岡 仙台市
6	7 10 25	全国教頭会定期総会（代議員） 地区研修担当者会議① 理事代表者会議③	ハイブリッド 下橋中学校 下橋中学校
7	1 3 5 12 23 31	第35回学校管理運営研修会（366名） 全国情報担当者会・事務担当者会 全国教頭会研究部長会① 全国教頭会要請担当者研修会 理事代表者会議④ 全国研究大会高知大会（44名）	トーサイクラシックホール岩手 オンライン オンライン オンライン 下橋中学校 高知市 ハイブリッド
8	1	全国研究大会高知大会	高知市 ハイブリッド
9	6 12～13 12～13 24 25 26	全国教頭会理事会① 東北地区研究部長会研究協議会 東北地区事務担当者会 理事代表者会議⑤ 全国要請推進部長会 国会議員への要請活動	ハイブリッド 仙台市 仙台市 下橋中学校 東京（都市センターホテル） 東京（議員会館）
10	29	理事代表者会議⑥	下橋中学校
11	14 19 27 28～29	第44回東北研究大会宮城大会（67名） 理事代表者会議⑦理事全体会② 研究大会役員運営会議 第48回岩手県小中学校副校長会研究大会（370名）	オンライン 下橋中学校 盛岡市総合プール トーサイクラシックホール岩手 サンセール盛岡・アイーナ
12	6 9 13	全国教頭会研究部長会② 地区研修担当者会議② 全国教頭会理事会②	東京（都市センターホテル） 下橋中学校 オンライン
1	21 23～24	理事代表者会議⑧ 東北教頭会理事研修会②	下橋中学校 仙台市
2	7 12 17	全国中央研修大会 理事代表者会議⑨ 評議員会②	オンライン 下橋中学校 オンライン
3	7 18 21	全国教頭会理事会③ 会計監査 理事代表者会議⑩	東京（都市センターホテル） 下橋中学校 下橋中学校

令和6年度各部活動の報告

総務部活動報告

【総務担当】

1 地区副校長会との連携について

次の会議・研修会を通して、各地区副校長会との連携を深めながら活動することができた。

- (1) 第1回評議員会及び地区事務局長合同会議は5月21日(火)に実施。第2回評議員会は2月17日(月)オンラインにより実施予定。
- (2) 地区研修担当者会議は6月10日(月)、12月9日(月)に実施。
- (3) 第35回学校管理運営研修会は7月1日(月)に実施。

2 全国公立学校教頭会、東北地区教頭会との連携について

次の会議等により、全国及び東北地区教頭との連携を深めることができた。

- (1) 全国定期総会は6月7日(金)にハイブリッドにより実施。
- (2) 全国研究部長会は7月5日(金)にオンライン、12月6日(金)にハイブリッドにより実施。
- (3) 全国要請担当者研修会は7月12日(金)にオンライン、全国要請推進部長会は9月26日(木)にハイブリッドにより実施。
 - ・ 文部科学省行政説明
 - ・ 講演 日本大学 末富 芳 教授 「学校安全ルールを作ろう」
 - ・ グループ協議
- (4) 全国大会高知大会は7月31日(水)～8月1日(木)に実施。
- (5) 全国理事会は、9月6日(金)ハイブリッド、12月13日(金)オンラインにより実施。令和7年3月7日(金)ハイブリッドにより実施予定。
- (6) 東北理事研修会は5月30日(木)～31日(金)、令和7年1月23日(木)～24日(金)に実施。
- (7) 東北研究部長会・東北事務担当者会は、9月12日(木)～13日(金)に実施。
- (8) 東北大会宮城大会は11月14日(木)にオンラインにより実施。

3 教育関係諸機関・校長会等、教育関係諸団体との連携について

- (1) 第35回学校管理運営研修会は、岩手県教育委員会、岩手県市町村教育委員会協議会から、講師の派遣を含む協力を得て運営することができた。
- (2) 小中学校副校長会の活動全般については、岩手県小学校長会、岩手県中学校長会の理解と協力をいただきながら進めることができた。
- (3) 本会役員を日本教育会岩手県支部や公立学校共済組合岩手県支部など教育関係諸団体の役員として派遣したり会議に参加したりして、各団体との連携を図ることができた。

4 調査結果を踏まえた要請活動について

全公教と連携し、9月27日(金)地元選出の国会議員への要請活動を行うことができた。

- ・ 衆議院議員 立憲民主党 階 猛 氏
- ・ 参議院議員 立憲民主党 横澤 高德 氏

5 会議等の適正・円滑な支給事務について

事務局の協力を得て、理事会や評議員会など会議や研修会の旅費の適正・円滑な支給事務に努めることができた。

6 今後の課題

今後の教育情勢の変化に対応した要請活動を実施するため、県教育委員会や県小・中学校長会との連携を図るとともに、要請の根拠となる調査活動の充実を図る必要がある。

【調査担当】

1 「副校長の基本調査」前年度（令和5年度）調査の振り返り

- ・例年、県大会開催年には調査は行わず、前年度の基本調査を踏まえ県大会第6分科会で提言をしている。
- ・基本調査は項目ごとに経年比較することから、原則として調査項目・設問の大幅変更は行わない。
- ・調査項目の検討は、副校長会理事代表者会議で行う。
- ・平成27年度から東日本大震災の質問項目を新設し、継続してきた。震災から13年が経過し、設問項目の中には現状では経年評価が難しいものも出てきている。

2 前年度調査の活用

(1) 前年度（令和5年度）調査について

- ・令和6年3月10日に発行、配布済み。今年度調査はなし。

(2) 令和6年9月に、本調査内容も活用し、県出身の国会議員への要請活動を行った。

(会長、総務部長)

(3) 令和6年度は岩手県小中学校副校長会研究大会第6分科会での提言を行った。

3 今後の課題

(1) 令和7年度の基本調査実施に向けて

- ・調査項目やその内容の見直しを行う。
- ・インターネット上の回答方法の改善を進める。
- ・今後も会員による入力をお願いしていく。

4 その他

研修部活動報告

1 第48回岩手県小中学校復副校長会研究大会の開催：盛岡市11月28日（木）～29日（金）

- (1) 第13期全国統一研究主題2年次の研究大会を盛岡市で開催し、県副校長会の会員の協力のもと成功裏に終了することができた。全体で370名の参加者を得ることができ、参加率は、91%となった。全体会をトーサイクラシックホール岩手、分科会をアイーナいわて県民情報交流センターとサンセール盛岡で行い、日程的にゆとりをもって運営することができた。
- (2) 全体会の記念講演では、岩手県教育委員会事務局学校教育室 学校教育企画監 伊藤 兼士 氏から、「GIGA スクール構想の今後と校務の情報化について」と題して、これからの GIGA スクール構想、校務の情報化について、国の動向を踏まえながら、今後、各学校で副校長としてどのような準備や心構えが必要であるかについてご指導を頂きました。
- (3) 分科会は、6課題7分科会すべて開催し、13の提言発表を行うことができた。大会運営役員を盛岡地区の会員、グループ協議の司会者・記録者等も各地区の会員の方々が担当し、大会の中核である分会会を充実することができた。

2 地区研修・研究の充実

- (1) 「地区研修の手引き」の編集発行
研究活動の円滑に推進し、創造的に展開できるように「研究の手引き」を作成した。
- (2) 地区担当者会議の開催
第1回 6月10日（月） 第2回 12月9日（月）
- (3) 地区研修・研究の推進
県内13地区副校長会が、それぞれの地区の実情と課題を踏まえながら、継続的に協働して副校長としての関わりを明らかにするような研究が進められた。

盛岡	11月22日（金）	サンセール盛岡	62名参加、班別研修の発表等 助言者なし
岩手	開催無し		各市町とも研究のまとめの時期を迎えている
紫波	11月20日（水）	矢巾町公民館	14名参加、来賓4名、紫波町班が県発表担当
花巻	12月6日（金）	石鳥谷総合支所	27名参加、班ごとの発表
和賀	12月4日（水）	江釣子地区交流センター	27名参加、年4回の班別研修を開催
胆江	11月20日（水）	水沢地区センター	31名参加、助言者1名、テーマに沿った発表
一関	11月12日（火）	東山地区交流センター	38名参加、助言あり、コロナ禍前と同様の内容
気仙	開催なし		各校の実態が異なるためまとめるのが困難
釜石	11月27日（水）	釜石中学校	19名参加、定例会を3回開催
遠野	11月20日（水）	遠野市浄化センター	14名参加、助言・講師1名
宮古	11月22日（金）	グリンピア三陸みやこ	33名参加、助言あり、補助資料も充実、
久慈	11月6日（水）	久慈グランドホテル	34名参加、助言あり、3つの班の発表
二戸	11月6日（水）	二戸勤労総合福祉センター	28名参加、学校統合等により班の再編が必要

3 第35回学校管理運営研修会の開催

- ・7月1日（月）トーサイクラシックホール岩手
- ・学校管理運営上の諸問題、指導行政の課題について研修を深めた。

4 全国大会・東北大会等への参加

- 全国大会（高知県高知市） 7月31日（水）～8月1日（木）
東北大会（宮城大会・オンライン）11月14日（木）
中央研修会（東京都・オンライン）2月7日（金）

5 研修収録の発刊

- 今年度も研究方針4C（明瞭性 Clearness、継続性 Continuity、協働性 Collaboration、関与性 Commitment）に基づいた実践的提言として全地区の研究を研究収録にまとめることができた。
2月20日発刊予定

広報部活動報告

1 副校長会報各号の内容について

号数	発行月日	主な内容
226号	7月1日	① 第1回評議員会・地区事務局長合同会議の概要 ・会長挨拶 相原伸裕 ・令和6年度活動方針 ② 令和6年度各部活動計画及び事業計画 ③ 県副校長会役員一覧 ④ 各地区役員名簿一覧 ⑤ 令和6年度研修会・研究大会案内
227号	10月21日	① 第35回学校管理運営研修会 講話1、講話2、講演 ② 第66回全国公立学校教頭会研究大会高知大会報告 ③ 地区副校長会だより 胆江地区 奥州市立稲瀬小学校 山本千和子先生 ④ 新任副校長奮闘記 盛岡地区 盛岡市立土淵中学校 小野寺聖子先生 久慈地区 洋野町立大野小学校 小野寺英先生
228号	2月中旬 発行予定	① 第48回岩手県小中学校副校長会研究大会報告 ② 第44回東北地区小中学校教頭会研究大会宮城大会報告 ③ 地区副校長会だより 宮古地区 宮古市立第一中学校 黒淵大介先生 ④ 新任副校長奮闘記 花巻地区 花巻市立大迫小学校 小岩美恵先生 一関地区 一関市立一関東中学校 小林義幸先生

2 活動反省と今後の課題

- (1) 6年ぶりに開催となった県大会をはじめ、全国大会や東北大会等、予定していた内容を概ね掲載することができた。
- (2) 県内各地区の事務局や会員の方々のご協力を得ながら、全国大会や東北大会の各分科会等の様子について紹介いただき、研修の概要や所感等を広く共有することのできるよい機会となった。
- (3) 「地区副校長会だより」及び「新任副校長奮闘記」は、会員の方々から好評を得ている企画であることから、今後も継続して掲載していきたい。

第48回研究大会最終参加者数一覧

分科 会 地 区	1A	1B	2	3	4	5	6	1日目 のみ	計	全体会参 加数	分科会参 加数	2日目のみ	欠席	会員数
	盛岡	4	3	1	11	4	5	6	2	36	33	34	3	3
岩手	4	4	10	5	5	9	4	3	44	38	41	6	0	44
紫波	1	8	1	0	0	0	2	0	12	8	12	4	2	14
花巻	3	8	4	1	2	2	3	1	24	21	23	3	3	27
和賀	3	1	2	11	2	2	3	1	25	21	24	4	2	27
胆江	3	0	1	4	8	4	3	3	26	20	23	7	5	31
一関	6	2	2	8	5	4	3	3	33	26	30	7	6	39
気仙	8	3	2	3	3	2	3	1	25	17	24	8	2	27
釜石	2	0	8	0	2	1	2	3	18	15	15	3	1	19
遠野	2	1	2	2	1	2	2	0	12	12	12	0	2	14
宮古	4	3	2	2	2	11	3	4	31	28	27	3	2	33
久慈	2	2	5	2	8	2	3	3	27	22	24	5	7	34
二戸	3	9	5	0	1	5	3	2	28	26	26	2	0	28
小計	45	44	45	49	43	49	40	26	341	287	315	55	35	376
運営役員	4	4	4	5	4	4	4	0	29	29	29	0	0	29
合計	49	48	49	54	47	53	44	26	370	316	344	55	35	405

第48回岩手県小中学校副校長会研究大会アンケート結果

回答370名中122名

1 記念講演について

- ・ 今後、どのような教育が求められているかがよく分かった。その必要性もよく理解できた。最後の動画は、今後の働き方を変えるものだと衝撃を受けた。今日の学びを少しでも今の学校に生かせるよう尽力したい。
- ・ 授業の中でICT活用が確実に図られてきているので、教育委員会と連携して統合型校務支援システムをさらに推進して業務改善していきたいと感じた。
- ・ 主体的・対話的で深い学びに取り組む児童がICT機器活用に長けており、自身の考えを構築しやすいと実感する場面が担任時代に多かった。一単時間の中、一単元の中での活用場面を明確にし、児童一人一人に個別最適な学習のための手段として、また、創造性を育むための手段として活用していくことの有効性について改めて考えることができた。校務の情報化について、働き方改革の一端となると感じた。
- ・ 直面している内容を取り扱っていただきありがとうございました。様々な面で再確認できました。反面、GIGAスクール構想の今後の部分がもう少しお聞きしたかったです。
- ・ GIGAスクール構想の動向について知る機会となった。また校務情報化について他校の取組を知ることができ本校の取組にいかしたい。希望としては、県で統一する校務支援システムについて、先行事例を含め教えていただきたいかった。
- ・ すでにICT活用については、かなり進んでいるので、後半にお話していただいた来年度から本格化導入される校務支援システムについて、どのような使い方ができるのか、どう業務改善に繋がるのかなど、具体的な使い方や先行事例などを紹介していただきたいかった。
- ・ 県の目指す方向性はわかったが、説明が早く理解が難しい箇所もあった。
- ・ GIGAスクール構想の背景やねらい、効果について改めて知ることができた。ICTは手段であり、これまでの教育実践や方法を否定するものではないということを、抵抗のある職員に伝えていきたい。
- ・ GIGAスクール構想のもと、岩手の現状を改めて確認する機会になりました。一方で、市町村によって学校のネット環境に違いがあり、公教育なのに子どもたちが経験するものが違ってしまう恐ろしさも感じました。

2 分科会について

- ・ 1A:実践発表や協議を通して、学校運営協議会の運営を通し副校長としてどのような役割を果たすことができるのか、様々な情報を得ることができた。また、復興教育の推進という面でも、副校長として今後取り組んでいくためのヒントを多く得ることができた。
協議の柱に沿って、各地区の課題や先行的な取組を交流しながら、副校長の職務の在り方について学ぶ機会となりました。特に、本地区の提言発表を基にした話し合

- ・ 6:働き方改革と人材育成について、普段の業務レベルで具体的に討論することができて有意義な時間だった。発表と助言から具体的な方策と実践しようと思う意欲をいただきありがたかった。

副校長としての様々な課題や学校の課題等が共有され、良い機会となった。改善策やアイデアなどを皆でだしあったり、もんだりして、前例とらわれず、私たち自身の最適な学びをさらに共有できたらよかったなあと思います。

3 大会日程について

- ・ ゆったりとした日程でよかったです。学校では、日々時間に追われているので、ほっとして研修に臨めました。
- ・ 遠い学校からも通えるような日程で良かったです。
- ・ 他校の取組から多くを学び、自分や地区のこれまでの実践をじっくりと振り返る 2 日間だった。2 日開催に様々な意見があるのかと思うが、個人的にはとても有意義な時間だった。
- ・ 一般参加者は、参加するだけですが、運営のみなさんは様々な行事の対応で忙しい時期に大会に向けて準備されて大変だったと思います。本当におつかれさまでした。大会の設定時期については、学校行事等が一段落した 11 月末であれば参加しやすいと思います。ただ、あえて 2 日間設定しなくてはいけないのかなと思いました。2 日目の日程の最初に講演を 1 時間程度入れて、その後分科会でも、9 時から始めて 16 時までには終わるのではないかなと思いました。2 日学校を空けると、かなりの文書の処理が溜まることになるので、ぜひ 1 日での開催を検討してください。
- ・ 可能であれば、長期休業中の方がありがたい。また、各団体との大会が重なり、校内体制が苦しかった。県養教と重なっていた。
- ・ 月末は、月締めの業務があるため、避けていただけるとありがたいです。
 - ※ 1日開催希望 122名中13名
 - ※ 2日開催でよい・ゆとりがあった等 122名中27名

4 運営について

- ・ 6年ぶりの開催で大変新鮮に感じました。一人職でも一人ではないことがよくわかる運営でした。大変ありがとうございました。
- ・ 1 日目の日程については、今年度並みで良いのではないかとと思われる。2 日目の日程について、協議の時間と発表の時間に余裕がないと感じた。適宜、水分補給やトイレ休憩を取るよう指示があったが、短時間での協議やグループの発表中に中座できないと感じた。受付時間を 30 分早めてもらい、分科会の充実を図ってほしいと感じた。
- ・ 良かったです。受付時間をもう少し柔軟に運営していただけるとたすかります。
- ・ 分科会が充実したものとなるよう、分科会の協議の柱を事前に伝えておいていただき、皆である程度の情報を用意して協議した方が深まると思う。
- ・ 記録の送付先が事前に分かるとよい。
- ・ 2 日目からの参加の場合、会場が分かりにくかった。受付場所が分かりやすいと良いかもしれません。
- ・ 準備、運営、大変お疲れ様でした。グループ協議の時間が丁度よかったです。

いでは、地区での取り組みでは見えなかった部分についても、具体的な意見を頂戴することができ、今後CSを進めていくうえで、大変参考となりました。

- ・ 1B:学校評価について、他校の取組について情報を共有する機会となった。特に、評価後に課題となったことをPDCAサイクルとして取り組むために、取り組み内容や時期を明記した表を作成することで、より実効性のある取り組みとなっている実践は、自校でも早速取り組んでみたいと感じた。小中一貫については、助言者参会者からいただいた助言や意見を、次年度に向けた反省を行う際の参考としたいと思う。助言の佐々木校長先生からは、副校長として何を大切にしていけばよいかを示唆していただき、今後に生かしていければと思う。

小・中学校の校種、規模の異なる学校の副校長がグループワーキングを通して、討論のテーマを多面的な視点で意見交流できた。

- ・ 2:午前の部では不登校対策について大変勉強になりました。午後は発表グループの一員として司会を務めさせていただきましたが、運営責任者の菅生先生始め運営側の皆様方のご協力ですmoothに進めることができました。また、地域連携の在り方についての各グループからのご意見が、我々が意識していない視点のものが多くあり大きな学びとなりました。廣澤校長先生のご助言は全てが領ける内容でした。特に、自分は「学校と地域が共有目標を設定し同じ視点で児童生徒を支援する」ことが重要と考え課題に載せましたが、そこを詳しくお話していただき、「人の役に立つ心を持つ子」に育てるという共有目標を重視し、ネットの世界だけでは得られない豊かな人間性を育成するのだという部分に大変感銘を受けました。有意義な研修機会になり、関係者の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

他校の実践を聞くことができ、参考となる事がたくさんあった。本校だけではなく他校でも不登校、不応児の対応では、様々苦勞している事が分かった。限られた職員での対応も難しく、今後もこのような機会があれば、参加して、今後の対応の参考にしたい。

- ・ 3:変貴重な機会となった。特に、学校運営協議会の副校長の役割について、協議することで、より鮮明となった。村田校長先生からも子どもたちの力をつけること、働く環境を整えること等、具体をまじえながらご助言いただき勇気をもらいました。

オープンAIの利便性や可能性を再確認した。適切な判断のもと業務の効率化に活用していきたい。CSについても他校との情報共有ができ、有意義であった。提言、ご助言いただいた先生方に感謝いたします。

- ・ 4:大変勉強になりました。とくに、助言が素晴らしかったです。私たち副校長が考えていかなければならない点を的確に示唆していただきました。

実践発表、交流という点ではとても参考になることが多かった。ただ、「研究」という視点から考えると、もう少し焦点化して取り組んだ方がよいと思う。

- ・ 5:研究発表、協議ともに充実しました。ご助言はさらに素晴らしく、私たち副校長の取組を価値付けていただきました。また、運営委員による分科会リフレクションにより研修成果が振り返られ、構成としてもよかったと感じています。

規模は違えど、各学校での実態や具体的な活動が交流により明らかになった。事項にも取り組める事柄があったので、ぜひ取り組みに入れていきたい。

5 次回県大会での記念講演講師の希望

- ・ 特別支援教育関係のお話を伺ってみたい。
- ・ 働き方改革の実践校の実際の声を聞いてみたいです。
- ・ 隣接県の校務システム導入事例発表や、分科会のテーマから1つ取り上げ、取り組み事例を発表してもらうことができれば、現実的にも刺激になると思われた。
- ・ たとえば石川県教頭会から、能登地震の際の休校、学校再開の時のお話しなど聞けたら勉強になります。
- ・ 人材育成に関する話題で、企業の方やその道のプロの方のお話を聞いてみたいです。
- ・ 資料にもあったフィルターバブルやエコーチェンバーなど、情報化社会の負の側面について、知りたい。
- ・ 学校マルチリートメントの方
- ・ 玉川大学谷和樹教授 國學院大学の田村学先生 大空小学校木村泰子先生 岩手県知事
- ・ 特にありませんが、「人を増やす」以外の働き方改革を模索しています。もう、やれることが見つからないのが正直なところなので。
- ・ 愛着障がいについて学習したいです

6 その他感想等

- ・ 大変貴重な会となりました。同じ副校長の方々との交流が非常に勉強になりました。是非とも、その時間は十分確保される大会であってほしいと切に願います。
- ・ 県民会館での座席について、感染症対策等考慮しもう少しゆったりと座れるように使用する座席のエリアを広げていただけるとありがたかったです。
- ・ 大会要項(冊子)について、各分科会の趣旨説明のページ掲載が必要と感じた。当日、グループごとにコピーが1部配布されたが、本来は、1日目の講演会前の基調提案のところで、全分科会について触れるべき内容と感じました。また、メモ欄が分科会ごとに挿入されると、使用しやすいと感じたので、来年度に生かしてもらいたいと思いました。できれば、グループ協議の記録メモをPDFデータにて共有できないものか、と考えます。同一分科会の方のみで結構ですが、示された代表の発表となると、共有できなかったグループについて知ることができないと感じました。記録担当の先生がまとめられるとのことでしたが、すべてのグループ発表の時間を確保するか、データ配付か、選択して実現してほしいと思います。
- ・ 事前に進行や記録の形式を送付してくださり、助かった。打ち合わせの場をもつことができ、安心して臨むことができた。
- ・ 学び多い分科会でした。ありがとうございます。相原会長のお話にいつも感銘を受けております。
- ・ 副校長として、同僚性を高める職員室の雰囲気作りを基盤とし、自ら、目指す教師像を描く教師集団を作ることができたらよい、と再認識いたしました。困っている先生に対して助けてくれる先生をできるだけ多くつなげることができるよう、日々謙虚に積み重ねていきます。副校長職の在り方について、学びが多く、身の引き締まる有意義な研修となりました。ありがとうございました。

令和6年度 歳入歳出中間決算書

1. 収入の部

令和7年2月10日現在

科 目	本年度中間決算額	本年度予算額	比較増減	備 考
1. 会 費	11,745,000	11,803,000	△ 58,000	29,000円×405名(病休2名除く)
2. 補 助 金	250,000	250,000	0	教育会、日教弘
3. 繰 越 金	764,865	764,865	0	
4. 研究大会積立金	1,215,000	1221000	△ 6,000	3,000円×405名(病休2名除く)
5. 雑 収 入	132,000	132,000	-	学生協
収 入 計	14,106,865	14,170,865	△ 64,000	

2. 支出の部

科 目	本年度中間決算額	本年度予算額	比較増減	備 考	
1. 研究大会費	1,529,012	2,145,000	△ 615,988	講師謝金	-
				助言者謝金	42,000
				発表者旅費	94,100
				司会・記録旅費	139,700
				大会役員旅費	126,100
				借料・損料	638,313
				記録	44,000
				資料費	225,555
				通信費	11,118
				盛花	5,000
				看板	5,000
				消耗品	17,669
				輸送費	-
写真	-				
				会議費	110,062
				渉外費	70,395
2. 事務費	1,933,937	2,460,000	△ 526,063	職員費	1,363,640
				共済積立費	-
				通信運搬費	158,758
				印刷費	-
				消耗品費	17,637
				コピー使用料	307,230
				事務所費	50,000
				雑費	36,672

3. 会 議 費	108,475	350,000	△ 241,525	理事諸会議 22,804 評議員・事務局・研修担当 25,816 東北理事諸会議 55,695 その他 4,160
4. 旅 費	1,386,700	1,479,000	△ 92,300	学校管理運営研修会 39,300 評議員・事務局・研修担当 217,000 理事諸会議 73,200 全国大会 637,000 東北大会 156,780 東北理事会 228,640 東北事務担当者会 31,880 中央研修 - その他 2,900
5. 刊 行 費	283,503	770,000	△ 486,497	評議員会要項 121,968 副校長会報 66,000 研究の手引 95,535 研究集録 - 副校長の調査 -
6. 研究推進費	1,889,506	2,000,000	△ 110,494	学校管理運営研修会 241,006 全国大会参加補助 1,354,000 東北大会参加補助 137,500 中央研修 7,000 大会発表補助 20,000 地区研究大会祝金 130,000
7. 負担金・会費	3,761,000	3,779,400	△ 18,400	全国教頭会費 1,863,000 東北ブロック負担金 30,000 日本教育会費 1,255,500 日本教育会岩手県支部費 607,500 いわて教育の日推進協議会費 5,000
8. 慶 弔 費	184,560	220,000	△ 35,440	退職記念品 142,560 見舞金 - その他 42,000
9. 積 立	657,500	660,500	△ 3,000	基金積立 50,000 研究大会積立 607,500
10. 予 備 費	0	306,965	△ 306,965	-
支 出 合 計	11,734,193	14,170,865	△ 2,436,672	

令和7年2月10日現在

14,106,865円 - 11,734,193 = 2,372,672 円

令和6年度 岩手県小中学校副校長会中間決算

(記念事業・東北大会等)

令和7年2月10日現在

1. 収入の部	1 前年度繰越金	1,635,811円
	2 積立金	50,000円
	3 利息	101円
	A 合計	1,685,912円
2. 支出の部		0円
	B 合計	0円
3. 収支の部(A-B)		
	1,685,912円 - 0円 =	1,685,912円

令和6年度 運営資金中間決算

令和7年2月10日現在

1. 収入の部	1 前年度繰越金	2,063,526円
	2 本年度入会金(9,000円×新入会員86名)	774,000円
	3 預金利息	100円
	A 合計	2,837,626円
2. 支出の部		
	1 全国公立学校教頭会拠出金(6,000円×86名)	516,000円
	2 ESETインターネットセキュリティ	7,590円
	B 合計	523,590円
3. 収支の部(A-B)		
	2,837,626円 - 523,590円 =	2,314,036円

令和6年度 研究大会積立金中間決算

令和7年2月10日現在

1. 収入の部	1 前年度繰越金	1,360,572円
	2 積立金 (1,500円×405名)	607,500円
	3 預金利息	84円
	A 合計	1,968,156円
2. 支出の部		
	1 研究大会参加費(3,000円×405名)	1,215,000円
	B 合計	1,215,000円
3. 収支の部(A-B)		
	1,968,156円 - 1,215,000円 =	753,156円

令和7年度活動方針並びに活動内容（案）

1 活動方針

- (1) 学校教育の果たすべき役割と学校教育を取り巻く今日的課題を認識し、常に研修に努めるとともに、全国、東北地区教頭研究大会及び各種研修会に参加し、副校長としての資質の向上を図る。
- (2) 全国公立学校教頭会、東北地区教頭会との情報交換・連携及び諸調査の実施により、職務推進上の課題を明確にし、教育関係諸機関・教育団体の連携・協力を図り、教育諸条件の改善並びに副校長の処遇等の改善をめざす。
- (3) 県内のみならず全国の被災された地域への支援を継続的に行う。
- (4) 岩手県小中学校副校長会の組織及び機能を強化し、会員相互の連携を深め、副校長会の充実・発展に努める。

2 活動内容

(1) 総務部

(総務担当)

- ア 地区小中学校副校長会との連携を深める。
- イ 全国公立学校教頭会、東北地区教頭会との連携を深める。
- ウ 教育関係諸機関・校長会等、教育諸団体との連携を深める。
- エ 調査結果を踏まえ、要請活動を行う。
- オ 会議旅費等の支給事務を適正・円滑に行う。

(調査担当)

- ア 「令和7年度岩手県小中学校副校長会の基本調査」を実施する
- イ 調査結果を分析し、会員の健康維持、処遇改善に向け、要請活動の基礎資料を作成する
- ウ 全国公立学校教頭会が実施する諸調査に協力する。

(2) 研修部

- ア 地区研修・研究活動の充実を図る。
- イ 「令和7年度岩手県小中学校副校長会研究集録」を発刊する。
- ウ 「第36回学校管理運営研修会」を開催する。
- エ 「第67回全国公立学校教頭会研究大会茨城大会」に参加する。
- オ 「第45回東北地区小中学校教頭会研究大会山形大会」に参加する。
- カ 「第50回中央研修大会」に参加する。

(3) 広報部

- ア 岩手県小中学校副校長会会報を発行する。(年間3回)
- イ その他、諸情報の収集・整理を行う。

(4) その他

- ア 国内における復興の現状を捉え、必要な支援を行う。
- イ 全国及び東北教頭会の場で復興の状況や支援について情報を収集・提供する。

総務部活動計画（案）

【総務担当】

1 地区副校長会との連携について

次の大会・会議・研修会の場を通して、各地区副校長会との連携を深める。

- (1) 評議員会は5月20日（火）参集（各地区事務局長会議含む）、2月16日（月）オンラインにより実施予定。
- (2) 地区研修担当者会議は6月9日（月）、12月8日（月）に参集により実施予定。
- (3) 第36回学校管理運営研修会は7月7日（月）に参集により実施予定。

2 全国公立学校教頭会、東北地区教頭会との連携について

次の会議・研修会の場を通して、全国及び東北地区教頭との連携を深める。

- (1) 全国定期総会は6月6日（金）ハイブリッドにより実施予定。
- (2) 全国大会茨城大会は7月31日（木）～8月1日（金）ハイブリッドにより実施予定。
- (3) 全国理事会は9月5日（金）ハイブリッド、12月12日（金）オンライン、3月6日（金）ハイブリッドにより実施予定。
- (4) 全国要請担当者研修会は7月11日（金）オンライン、全国要請推進部長会議は9月25日（木）ハイブリッドにより実施予定。
- (5) 全国研究部長会は7月4日（金）オンライン、12月5日（金）ハイブリッドにより実施予定。
- (6) 全国事務担当者会議は6月6日（金）ハイブリッドにより実施予定。
- (7) 東北理事研修会は5月22日（木）～23日（金）、1月22日（木）～23日（金）参集により実施予定。
- (8) 東北研究部長会・東北事務担当者会は8月28日（木）～29日（金）参集により実施予定。
- (9) 第45回東北地区小中学校教頭会研究大会山形大会は11月13日（木）～14日（金）参集により実施予定。

3 教育関係諸機関・校長会等、教育関係諸団体との連携について

- (1) 第36回学校管理運営研修会の開催にあたっては、岩手県教育委員会及び市町村教育委員会協議会へ講師派遣を含む協力を依頼する。
- (2) 小中学校副校長会の活動全般について、岩手県小学校長会、岩手県中学校長会の理解と協力をいただき、必要に応じて指導・助言を依頼する。
- (3) 本会役員を日本教育会岩手県支部や公立学校共済組合岩手県支部など教育関係諸団体の役員として派遣したり会議に参加したりして、各団体との連携を図る。

4 調査結果を踏まえた要請活動について

- (1) 全国教頭会との連携で、地元選出の国会議員への要請活動を行う。
- (2) 「副校長の基本調査」をもとに、政局の様子や県内会員の実態を的確に把握し、全国及び岩手県教育委員会教職員課・学校教育室への要請活動に生かしていく。

5 会議等の適正・円滑な支給事務について

- (1) 事務局の協力を得て、各地区副校長会へ教育情報を提供し、会議等の適正・円滑な支給事務に努める。
- (2) 各地区からの会費納入は、早期に行われるよう各地区事務局との連絡を密にしながら進める。

【調査担当】

1 令和7年度「副校長の基本調査」の実施

(1) 調査のねらい

- ・副校長のおかれた現状を的確に把握する。
- ・副校長職への理解を深める資料とする。
- ・副校長の職責に対する理解を深め、学校経営に対する見通しを持つ。

(2) 調査の内容

(経年比較も視野に入れつつ、設問は現状の課題に沿ったものに見直しを図る。)

- ・個に関すること（勤務学校規模・年齢・性別・勤務年数など）
- ・副校長の職務について
- ・生活等に関すること
- ・健康等に関すること
- ・給与等の改善に関すること
- ・行政等への要望に関すること
- ・復興教育に関すること

(3) 調査対象

県内公立小中学校・義務教育学校の副校長

(4) 計画

- ・7月 基本調査を依頼
- ・8月 回答、回収
- ・1月 「基本調査」報告書発行

(5) 調査方法

- ・岩手県小中学校副校長会ホームページ上でのオンライン調査。
- ・期日までの回収が得られない場合、地区事務局を通して依頼する。

(6) 留意点

- ・県事務局より各地区事務局に下記について送信し、地区会員へ調査を依頼する。
- ・「調査実施通知」「ID及びパスワード通知」「調査用紙」

2 令和7年度「副校長の基本調査」に基づく活動等

(1) 基礎資料の作成

- ・調査報告書の作成と配布

(2) 国の文教政策への要請活動

研修部活動計画（案）

1 地区研修・研究活動の充実

(1) 「研究の手引き」の発行

- ア 研究活動を円滑に推進し、創造的に展開できるようにするためのガイドブックとして活用できるようにする。
- イ 研究推進の概要と計画を掲載する。
- ウ 第13期全国共通研究課題の趣旨、研究の視点及び内容例を一覧で掲載する。
- エ 原稿作成例や様式等を具体的にわかりやすく示すことで、執筆内容や項目の統一性を図る。

(2) 地区研修担当者会議の開催（第1回：6月9日参集、第2回：12月8日参集）

- ア 岩手県小中学校副校長会の研究活動について共同推進するため、共通理解を深める。
- イ 各地区研究・研修の効率的推進を図るとともに、各地区の取組を交流する機会とする。

2 研究集録の発行

(1) 編集方針

- ア 研究方針3C（年次計画により組織的、継続的に積み上げられた研究＝継続性 continuity、協働実現により練り上げられた研究＝協働性 collaboration、副校長の関わりが明らかな研究＝関与性 commitment）の視点が明確となるような内容となるよう努める。
- イ 全国統一研究主題や共通研究課題、研究重点等を踏まえ、副校長としての資質向上に資する内容となるよう努める。

(2) 内容

- ア 全国共通研究課題に基づく研究実践の内容及び成果と課題（各地区の提言分担による紙上発表）
- イ 各地区副校長会の研修の取組等（地区研修のあゆみ）
- ウ その他、令和7年度の研修活動等について

3 「第36回管理運営研修会」の開催

(1) 期日：令和7年7月7日（月）

(2) 会場：トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）中ホール

(3) 内容：学校管理運営上の諸問題及び指導行政上の課題等についての講話、副校長として職務や資質向上に関わる講演等

4 全国大会、東北大会、研修会等への参加

(1) 第67全国公立学校教頭会研究大会茨城大会（水戸市） 7月31日（木）～8月1日（金）

(2) 第45回東北地区小中学校教頭会研究大会山形大会（山形市） 11月13日（木）～14日（金）

(3) 第50回中央研修大会（オンライン大会） 令和8年2月13日（金）

その他、全国研究部長会、東北地区研究部長会 等

広報部活動計画(案)

1 活動及び編集方針

- (1) 会員への情報提供を主たる目的とし、読みやすく充実した情報発信に努める。
- (2) 会報作成及びWEBページを編集する。
- (3) 各種大会等の報告は、代表参加制の意図も踏まえ、広く会員に報告することを目的とし、職務に役立つように要点・概要を中心とした掲載を基本とする。
- (4) 原稿依頼は、各種大会参加前に行う。
- (5) 各地区副校長会だより及び新任副校長奮闘記の掲載を継続する。
- (6) 大会参加者の声、特別寄稿など変化のある編集を心がける。

2 各号の編集内容

号数	発行月	主な内容
229号	7月上旬	① 評議員会 会長挨拶、方針並びに活動内容 ② 県副校長会役員一覧 ③ 各地区役員名簿一覧 ④ 令和7年度研修会・研究大会の案内
230号	10月上旬	① 第36回管理運営研修会 講話1、講話2、講演 ② 全国研究大会(茨城大会)報告 ③ 地区副校長会だより(二戸地区) ④ 新任副校長奮闘記(盛岡地区、宮古地区)
231号	2月上旬	① 特別寄稿 ② 東北地区小中学校教頭大会(山形大会)報告 ③ 地区副校長会だより(岩手地区) ④ 新任副校長奮闘記(花巻地区、釜石地区)

- 3 各号のPDFデータをWEBページに掲載する。

地区副校長会だより・新任副校長奮闘記地区割当表

地区副校長会だより：○ 新任副校長奮闘記：小、中

年度	会員数 (小)	会員数 (中)	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	回数 (地区会)	回数 (新任小)	回数 (新任中)
盛岡	41	26		中	小	○	中		○	中	小		○	中	小		中		3	3	5
岩手	31	14	中		○	中	小	小			中	○		小	中	○			3	2	4
紫波	9	5	○				小			○		中				小			2	2	1
花巻	16	11		小	中		○			小				○			○	中	3	2	2
和賀	16	11	小				○			小				○		中	○		3	2	2
胆江	23	8		○		小		中			○		小				小		2	3	1
一関	23	16		中		小		○	小	中			小	中	○		中	○	3	3	4
気仙	21	7	小					中	○		小		中			○		小	2	3	2
釜石	12	7			小			○				小			○				2	2	1
遠野	11	3							小			中	○			小			2	2	1
宮古	19	15		○	中		小		中		○		中		小	中		○	3	2	4
久慈	21	13	○	小			中			○		小			中		小	中	2	3	3
二戸	21	7	中		○			小			中	○		小				小	2	3	2

※当該地区に、新任副校長が着任しなかった場合は、新任副校長奮闘記の執筆を次年度担当地区に依頼する場合がある。

令和7年度以降の研修体制について

(1) 全国大会及び東北大会の分科会構成（第13期～第14期）

大会		第1課題 教育課程	第2課題 子供の発達	第3課題 教育環境整備	第4課題 組織・運営	第5課題 教職員の専門性	第6課題 副校長・教頭の職務
全 国	R7. 茨城 8. 北海道 9. 兵庫	A・B 2分科会	1分科会	1分科会	1分科会	A・B 2分科会	全公教担当
東 北	R7・山形 8. 秋田 9. 青森	A・B 2分科会	1分科会	1分科会	1分科会	1分科会	他県開催では 分科会なし

① 全国大会の第6課題は、特別分科会（全公教担当）となり、第1・5課題がそれぞれA・Bの2分科会に分かれる。

② 東北大会の第5課題は、A・B分けず1分科会となる。他県開催では第6課題はなし。

(2) 全国大会及び東北大会の提言分担割当（第13期）

年度	R7	R8	R9
全国 大会	茨城	北海道	兵庫
東北の 割当 分科会	山形 (中) 2	福島 (小) 1A	青森 (小) 5B

<全国大会（前年度割当地区が提言）>

①令和10年度島根大会第1課題Bは「和賀」に依頼。校種は小学校で指定。

・全国大会は開催時期が8月初め頃であるため、前年度の発表から割当。

令和9年度第1課題Bは釜石・和賀地区

・釜石地区は令和10年度東北大会第4課題割当となっているため和賀の割当とする。

<東北大会（当年度割当地区が提言）>

①令和7年度山形大会第2課題「胆江」に依頼

岩手はR4全国大会で提言済み。

②令和8年度秋田大会第1課題B「気仙」に依頼

一関はR4全国大会で提言済み。

③令和9年度青森大会第1課題A「二戸」、第5課題「花巻」に依頼

紫波はR10東北大会で提言予定。

気仙はR8東北大会で提言予定。

④令和10年度東北大会（盛岡）の提言分担は以下の通り

第1課題Aは「久慈」に依頼 胆江はR7東北大会で提言予定

第1課題Bは「宮古」に依頼 岩手はR4全国大会で提言済み

第2課題は「一関」に依頼 気仙はR8東北大会で提言予定

第3課題は「紫波」に依頼 花巻はR9東北大会で提言予定

第4課題は「釜石」に依頼 二戸はR9東北大会で提言予定

第5課題は「盛岡」に依頼 和賀はR10全国大会で提言予定

⑤令和11年度以降の提言分担は提示されてから決定

年度	R7	R8	R9
東北 大会 開催県	山形	秋田	青森
1A	秋田	青森	岩手 (二戸)
1B	青森	岩手 (気仙)	福島
2	岩手 (胆江)	福島	宮城
3	福島	宮城	山形
4	宮城	山形	秋田
5	秋田	青森	岩手 (花巻)

(3) 県大会の提言分担割当

・次頁表の通り「6分科会×2提言の12提言」の分担を毎年5つずつ上にずらすローテーションとする。

・1つずつずらすと、地区内で同じ課題の割当が2年続いてしまう。

・2つ、4つ、6つずつ等偶数個ずらすと、小・中学校で割り当たる課題が固定してしまう。

（1つの課題2地区割当のうち、上段が小学校、下段が中学校を原則としている。）

・3つずつずらすと、4年間で1周して最初に戻り、割り当たらない課題が出てしまう。

◇ 地区分担表 R6.12.4 現在

□ …東北大会提言

□ …全国大会提言

年度	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
内容	紙上	紙上	全国	紙上	県大会	紙上	県大会	紙上	東北	紙上	県大会	紙上	県大会	紙上	東北	紙上	県大会	紙上
1A	胆江	花巻	花巻	盛岡	一関	遠野	岩手	紫波	久慈	気仙	和賀	宮古	二戸	胆江	花巻	盛岡	一関	遠野
	岩手	紫波	紫波	久慈	気仙	和賀	宮古	二戸	胆江	花巻	盛岡	一関	釜石	岩手	紫波	久慈	気仙	和賀
1B	宮古	二戸	二戸	胆江	花巻	盛岡	一関	釜石	岩手	紫波	久慈	気仙	和賀	宮古	二戸	胆江	花巻	盛岡
	一関	遠野	遠野	岩手	紫波	久慈	気仙	和賀	宮古	二戸	胆江	花巻	盛岡	一関	遠野	岩手	紫波	久慈
2	気仙	和賀	和賀	宮古	二戸	胆江	花巻	盛岡	一関	遠野	岩手	紫波	久慈	気仙	和賀	宮古	二戸	胆江
	花巻	盛岡	盛岡	一関	釜石	岩手	紫波	久慈	気仙	和賀	宮古	二戸	胆江	花巻	盛岡	一関	釜石	岩手
3	紫波	久慈	久慈	気仙	和賀	宮古	二戸	胆江	花巻	盛岡	一関	釜石	岩手	紫波	久慈	気仙	和賀	宮古
	二戸	胆江	胆江	花巻	盛岡	一関	遠野	岩手	紫波	久慈	気仙	和賀	宮古	二戸	胆江	花巻	盛岡	一関
4	釜石	岩手	岩手	紫波	久慈	気仙	和賀	宮古	二戸	胆江	花巻	盛岡	一関	遠野	岩手	紫波	久慈	気仙
	和賀	宮古	宮古	二戸	胆江	花巻	盛岡	一関	釜石	岩手	紫波	久慈	気仙	和賀	宮古	二戸	胆江	花巻
5	盛岡	一関	一関	釜石	岩手	紫波	久慈	気仙	和賀	宮古	二戸	胆江	花巻	盛岡	一関	釜石	岩手	紫波
	久慈	気仙	気仙	和賀	宮古	二戸	胆江	花巻	盛岡	一関	遠野	岩手	紫波	久慈	気仙	和賀	宮古	二戸
6	総務部		全公教		総務部		総務部		総務部		総務部		総務部		総務部		総務部	
全国統一研究主題 研究期		第13期			第14期			第15期			第16期			第17期				
東北大会 開催県		福島	宮城	山形	秋田	青森	岩手	福島	宮城	山形	秋田	青森	岩手	福島	宮城	山形		
東北大会 提言分担 (本県)		4二戸	3盛岡	2胆江	1B気仙	1A5二花戸巻	全課題	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定
全国大会 開催ブロック (都道府県)		石川県	高知県	茨城県	北海道	兵庫県	島根県	熊本県	宮城県	三重県	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定
全国大会 提言分担 (東北ブロック)		5宮城	3秋田	2山形	1A福島	5B青森	1B岩手	宮城	全課題	山形	福島	青森	岩手	宮城	秋田	山形		

※ 平成 29 年度以降の遠野・釜石地区については、2 年ずつ（紙上発表と県発表のセット）担当することとし、同一地区が隔年で毎回県発表とならないようにする。

災害復興支援活動について

1 全国公立学校教頭会及び東北教頭会の復興支援活動

(1) 全国公立学校教頭会（R2 年度役員会資料）

政府によって「激甚災害」に指定された災害が発生した場合、

ア 状況把握及びお見舞い

イ 全公教見舞金を届ける。

ウ HP へお見舞いメッセージの掲載及び義援金の送金先を明示する。

エ 単位教頭会へ義援金の依頼を行う。研究大会・会議等参集する場での募金活動

(2) 東北教頭会

東北教頭会会議等で情報交換を行いながら、東北の状況を確認する。

2 岩手県小中学校副校長会の復興支援活動

(1) 支援等に関する情報を収集し、情報提供に努める。

→全国教頭会、東北各県教頭会等の会議を利用し、支援等に係る情報を収集し、必要などころへ情報提供を行う。

(2) 甚大な被害をもたらす災害が起きた場合、どのような状況下においても支援する体制を早急に取り、副校長会としての支援に努める。その際には、評議員会を経ず、会長・副会長・事務局で検討して対応する場合もある。